

令和6年4月19日

○冒頭挨拶

【石田委員長】

- ・第1ステージは1993年の「道の駅」の発足と同時に始まってずっと続いている。
- ・第2ステージは2013年から始まってずっと続いている。
- ・第3ステージを2025年で切ってしまうといいのか。

○議事（1）報告事項

i) 能登半島地震による「道の駅」の対応について

ii) 「道の駅」における高付加価値コンテナ活用ガイドラインについて

(評価室より資料1、2について説明。)

【根岸委員】

- ・高速道路と「道の駅」の役割というのは非常に大切である。
- ・国直轄の高速道路IC近くの「道の駅」は国による直接支援が必要ではないか。

【石田委員長】

・「あらい」や北海道の「厚岸グルメパーク」、「いいで」など「防災道の駅」としてハード整備はもちろん、それ以上に地域でネットワークの輪がかなり広がっている。

【山田委員】

- ・「防災道の駅」の認知度が低いということが課題ではないか。

【原委員】

・「道の駅」における高付加価値コンテナ活用について、平時の利用については、日本風景街道との連携やいろいろなイベントで非常に有効に活用できると思うので連携をとっていききたい。

【国崎委員】

・「防災道の駅」と定義づけているのは関係者のみで、一般的には「防災道の駅」であろうと一般の「道の駅」であろうと災害時には拠点にする。

- ・「防災道の駅」にかかわらず、「道の駅」での防災機能の強化が重要である。
- ・トレーラーハウスやコンテナを被災地に持っていくことは簡単ではない。
- ・必要なときに必要な場所にコンテナが入れるような体制やスキームをつくっていただきたい。

【豊田委員】

- ・コンテナトイレに関してわざわざ福岡県から持ってきたということで、数が非常に限られているのであれば、各県に1つ置くなどが必要になってくるのではないか。

○議事（2） 審議事項

- i) 主な論点と今後の進め方
- ii) 「道の駅」第3ステージの取組状況
- iii) 全国道の駅連絡会の活動状況

（評価室より資料3、4について説明。）

（全国道の駅連絡会より資料5について説明。）

【根岸委員】

- ・宮崎県内の状況を踏まえると、高速道路の整備と「道の駅」の整備をより一体的に進めるということが地方創生を考えると非常に重要ではないか。
- ・「防災道の駅」について、宮崎県は南海トラフの危機感があるため、追加選定に踏み出してほしい。

【徳山委員】

- ・第1・2・3ステージには上下関係はない。
- ・全員が第3ステージの機能を目指さなくてもよい。
- ・第3ステージ推進委員会という以上、第3ステージの定義をはっきりさせた上で、それを進化する仕組みが必要ではないか。

【篠原委員】

- ・「道の駅」を日本のブランドとして、レンタカーの利用促進が考えられる。
- ・立ち寄り先をベースにして、外国人との接点を持って、地域のブランドをつなげていくというような構想があった。

【国崎委員】

- ・物事を始めるときは災害が起きたときのことを念頭に入れて対策をとる必要がある。
- ・BCPの策定を具体的にどう進めていくのかという指針と策定が進まない課題を報告してほしい。

【楓委員】

- ・「道の駅」が自由に運営されるということが重要である。
- ・まちぐるみで地域の資源を「道の駅」が中心になって磨き上げ、商品化し、提供するというのを地道に取り組んでいる「道の駅」もある。
- ・「道の駅」を拠点として何が体験できるのかというコンテンツづくりが求められているので、まちぐるみにより新たなコンテンツを開発できる可能性が広がるのではないかと。

【原委員】

- ・「道の駅」と日本風景街道の各団体との連携はかなり進んでいる。
- ・「道の駅」自体がブランドとして大きくなることも重要であるが、地域経済や地域コミュニティとのつながりを強化していくことも重要であるのではないかと。

【山田委員】

- ・国土形成計画では、防災のほかに、関係人口の拡大、深化に向けた場づくりという文言が「道の駅」と関連して記載されている。
- ・「道の駅」ができる関係人口への対策や呼び込み機能がどういったものか考えることが必要である。
- ・現在の「道の駅」の配置が果たして適切かどうかという視点が必要である。

【豊田委員】

- ・アルベルゴ・ディフーズの考え方など、ハード面ということではなく、ソフト面の中で、「道の駅」というのを考えていく必要があるのではないかと。
- (アルベルゴ・ディフーズ:街全体で、宿泊施設やレストランを水平的にネットワーク化し、分散的に運営することにより、地域の連携、活性化、交流の創出を生み出し、少子高齢化、過疎化、空き家問題に取り組むイタリアを発祥とする持続可能なおもてなしの構想)
- ・「道の駅」の世界ブランドということ考えたときに、周遊観光であったり、「防災道の駅」であったり、「道の駅」のアイデアをいかにブランド化していくかを考える必要がある。

【堀内委員】

- ・「道の駅」のリソースは一様ではないため、各施設の背景や事情を踏まえ、プライオリテ

イーを考える必要がある。

- ・重要な視点の1つとして、人口減少や少子高齢化の進展が大きな前提要件となる。
- ・関係人口やインバウンドの誘客についても人口動態がどのように変化しえていくのかを考えるべきである。

【石田委員長】

- ・政府計画に「道の駅」がいろいろと位置付けられている。
- ・国土形成計画は防災しか記載がなく、地域生活圏をどう具体的に展開していくかということが重要である。
- ・「道の駅」は拠点性を持っているが都市計画などに位置づけられておらず、周りとの関係性がないことからどう働きかけていくのか。
- ・国土強靱化基本計画で広域防災計画の資料があるが、県によっては全然関係されていないというのはどうなのか。
- ・デジタルライフラインはコミュニティセンターなどと書かれているがそれをどう強化していくのか。
- ・道路行政以外と連携して働きかけていくことが重要である。
- ・第3ステージをさらに加速するためには、制度的な下支えを考える、あるいは環境を整えていくことが重要である。

— 了 —